

# 豊島区立池袋第三学校建替え基本構想に関する提言書 概要版

池袋第三小の建替え等を考える会

## 1. 「池袋第三小の建替え等を考える会」の設立について

池袋第三小学校は、平成 20 年 7 月に策定された豊島区立小・中学校改築（建替え）計画の前期計画の対象校として位置づけられ、下表のスケジュールで建替えを進めていく予定になっています。

基本設計にいたるまでには、教育内容や地域の実情に応じた学校施設づくりの様々な条件等を整理して基本的な考え方（基本構想）をまとめておく必要があります。

このため、地域、保護者、学校、区及び教育委員会等との協働による検討及び協議を実施する活動組織として、「池袋第三小の建替え等を考える会」が平成 22 年 12 月に設立されました。

【池袋第三小学校建替えのスケジュール】

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
予定	提言書 (池三小考える会)	基本計画 基本設計	実施設計	建設工事	建設工事	新校舎開校 (8月)

※仮校舎利用期間：平成 26 年 8 月（2 学期から）～平成 28 年 7 月（1 学期中）

## 2. 池袋第三小学校の現状と建替えに伴う課題の整理

### 2-1. 池袋第三小学校の現状

#### ①通学区域

池袋第三小学校の通学区域は、西池袋一丁目の一部と西池袋三～五丁目の区域です。また、隣接校選択制度等を利用し、学区域外からの通学も見られます。

#### ②児童数・学級数等

池袋第三小学校の児童数は 287 名（平成 24 年 4 月 1 日現在）、学級数は 12 学級となっています。

【児童数・学級数（平成 24 年 4 月 1 日現在）】

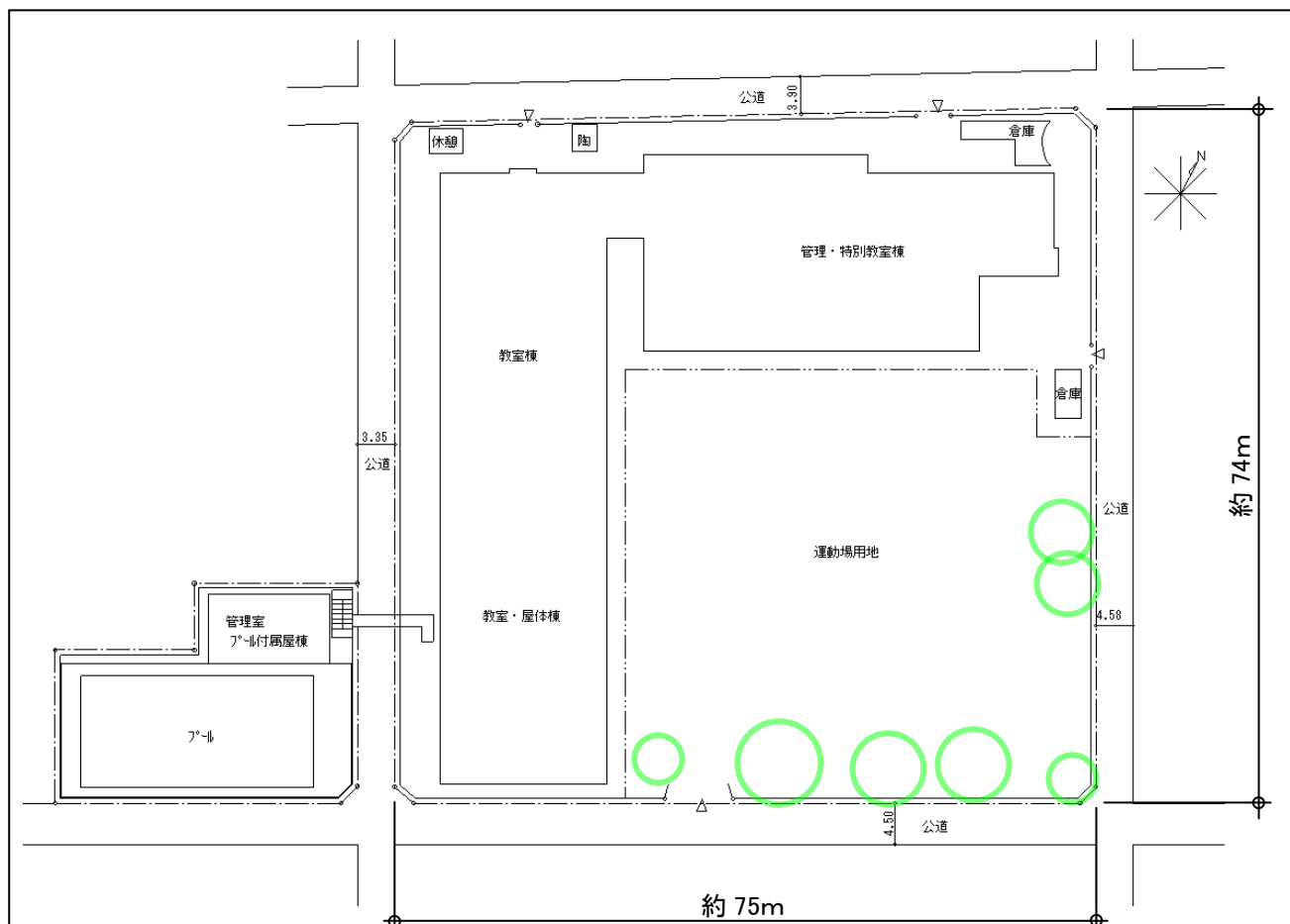
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	あゆみ	合計
児童数	51	49	48	57	34	46	2	287
学級数	2	2	2	2	1	2	1	12

○ 敷地：校地面積 6,403 m<sup>2</sup>（運動場 2,750 m<sup>2</sup>）、プール別棟（650 m<sup>2</sup>）

○ 建物：RC造3階建て 延床面積 4,668 m<sup>2</sup>

建築年度 昭和 36 年度、昭和 37 年度、昭和 39 年度（体育館側から順）、昭和 46 年度（北側校舎）

【池袋第三小学校現況平面図】



- 所在地：西池袋三丁目 14 番 3 号
- 用途地域：第 1 種中高層住居専用地域
- 防火地域：防火地域
- 高度地区：第 3 種高度地区、最低限度高度地区 7m
- 日影規制：4h、2.5h（測定面の高さ：4.0m）※北側隣地は制限なし
- その他：第 1 種文教地区
- 道路斜線：1：1.25（制限範囲は道路の反対側から 25mまで）

### ③学校の現況等

池袋第三小学校は、池袋駅西口から西方向へ約 600mの商店街と住宅地の混在した環境に立地しています。北側には立教大学・高校・中学等が集まる文教地区となっています。また、上り屋敷公園や西池袋公園、立教大学構内等のオープンスペースや、緑が比較的多い環境となっています。

【右 池袋第三小学校周辺航空写真】



## 2-2.建替えに伴う課題

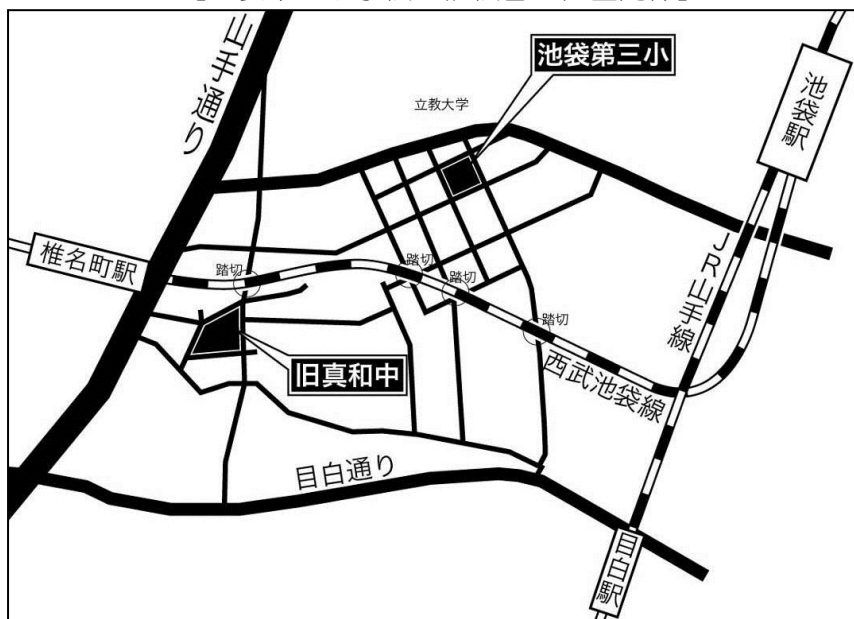
### ① 建築制限による課題

土地の形状が正方形に近く、校舎の配置に自由度があるが、第1種中高層住居専用地域内にあり、日影規制が厳しくなります。また、プールは道を隔てた別棟で、校舎と歩道橋により接続しています。現プール棟と、校舎敷地の連絡方法も考慮に入れる必要があります。

### ② 仮校舎への通学

真和中学校跡地（目白五丁目 24 番 12 号）に仮校舎が建設され、池袋第三小学校建替え時の仮校舎として使用します。仮校舎の位置は現在の池袋第三小学校から、直線距離で約 600m ですが、西武線の踏切を渡る箇所があるため、児童の通学には何らかの対策が必要となります。

【池袋第三小学校と仮校舎の位置関係】



## 3.池袋第三小学校の機能と役割

池袋第三小学校は「学びの場」、「生活の場」、「地域の拠点」を基本機能として、以下の機能と役割を持っています。

### ① 子どもスキップ

学校の教室、校庭、体育館などを活用し、小学1年生から6年生までの児童を対象として、自主的な参加のもとに遊びをおとして、子どもたちが交流を広げる事業です。

### ② 地域利用機能

- 地域活動の場
- 地域のスポーツ、集会等の場

### ③ 救援センター機能（地域本部）

救援センターは、震災時に地域の避難所であるとともに、応急救護活動の拠点として次の機能を有しています。

1. 防災行政無線等の整備による災害情報の収集伝達
2. 炊飯器・ろ水機等の整備による給食給水活動
3. 傷病者のための応急医療救護活動
4. 被災者のための一時的な宿泊場所の提供

#### 4.学校説明会および学校建築に関する勉強会の実施

今後の協議・検討に向けて、イメージを共有し、施設計画の参考とするため、最近建設された区外の小学校2校を見学しました。また、学校建築に関する専門の先生を招き、勉強会を行いました。

- (1) 新宿区立四谷小学校見学（平成 23 年 3 月 5 日実施）
- (2) 板橋区立大谷口小学校見学（平成 23 年 3 月 11 日実施）
- (3) 学校建築に関する勉強会 - 東洋大学長澤悟教授の講義  
（平成 23 年 6 月 28 日実施）



【学校施設見学会】

#### 5.池袋第三小学校の建替えに関するアンケート調査の実施

池袋第三小学校の児童、保護者、教職員および通学区域の区民の方の池袋第三小学校建替えに関する意見や考えを把握し、今後の施設計画検討の基礎資料とすることを目的として実施しました。アンケートでは、「校庭が狭いので広く取ってほしい」、「災害拠点機能の充実を図ってほしい」、「緑豊かな環境にしてほしい」といった意見が多くなっています。

#### 6.池袋第三小学校建替え施設計画の検討（ワークショップ）

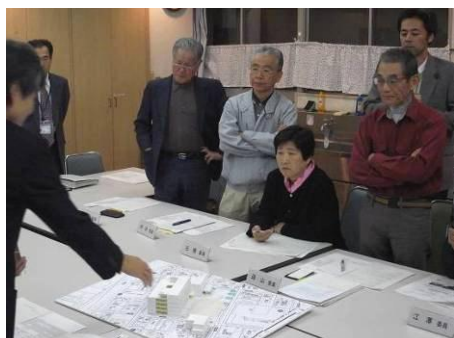
池袋第三小学校の建替えに関するアンケート調査の結果を踏まえて、ワークショップ形式で施設計画の検討を行い、建替えのコンセプト、基本方針、校舎の配置案や要望事項等について話し合いました。ワークショップ形式で検討することにより、参加者がより気軽に自由な発言ができ、活発な議論が行われました。

##### 6-1.施設計画の検討（平成 23 年 7 月 21 日、9 月 14 日）

2 回にわたり、2つのグループに分かれて、模造紙とラベルを用いて行いました。1 回目は池袋第三小学校の現状や新校舎について自由に意見を出し合いました。2 回目は、1 回目の結果に基づき、コンセプト案や基本方針案をまとめ、議論を深めました。

##### 6-2.建物配置の検討（平成 23 年 10 月 19 日、11 月 9 日、12 月 7 日）

建替え想定模型（縮尺 1/200）を用いて、建物の配置について議論しました。模型は校舎の各階で分割できるようになっており、建築制限を考慮したうえで、様々な校舎配置について意見交換が行われました。



【施設計画検討のようす】



【検討内容発表のようす】



【建替え想定模型】

#### 7.池袋第三小学校建替えのコンセプトおよび基本方針

池袋第三小学校の建替え施設計画検討ワークショップを経て、建替えのコンセプトおよび基本方針を以下の通り決めました。

## 7-1.コンセプト

学校大好き 地域と共に  
あふれる光そよぐ風 つながる緑ふれあう心  
木の温もりに抱かれた 楽しい居場所  
豊かな緑に囲まれた みんなが使える地域の庭  
しなやかな校舎 広い校庭 爽やかな緑 澄み渡る空  
そんな学校をつくりたい

## 7-2.基本方針

### 方針1：楽しい居場所となる学び舎をつくる

- ・自発的な学習を誘発する空間構成に工夫する。
- ・ICT 導入のインテリジェント校舎とする。
- ・家庭的な雰囲気のある教室をつくる。

### 方針2：地域のシンボルとなる景をつくる

- ・既存樹木等の緑を残すとともに、緑豊かな景観をつくる。
- ・学校と地域の伝統・歴史を取り入れたシンボル性を表現する。
- ・地域色を取り入れる。
- ・地域利用に開かれた学校とする。

### 方針3：安全・安心の装置をつくる

- ・防犯安全性を保つ見通しの良い校庭とする。
- ・セキュリティの高いシステムを構築する。
- ・車いす利用等に対応できるバリアフリー構造とする。
- ・優れた救援センター機能をもつ地域の防災拠点とする。

### 方針4：自然を活かし自然に親しむ環境をつくる

- ・自然光や風をうまく利用できる構造をつくる。
- ・省エネルギー、省資源に有効な構造や材料及び設備に配慮する。

### 方針5：十分な運動と催しに対応できる広さの校庭をつくる

- ・学校利用とともに、地域利用の利便性と交流を育む多面的な利用ができるように工夫する。
- ・地域の広場がないため、お祭りや商店街のイベントなどにも利用したい。そのため、地域にも使いやすい、できるだけ広い校庭となるように工夫する。

## 8.池袋第三小学校建替えのコンセプトおよび基本方針

池袋第三小学校建替えに関するアンケート調査の結果を踏まえて、ワークショップ形式による協議・検討を行い、池袋第三小学校建替えの基本方針に基づいた、施設整備方針を取りまとめました。

### ① 現状を残し、活用したいもの 【基本方針2に該当】

- ・桜の木及び周囲の樹木
- ・正門のオブジェ
- ・二宮金次郎の像
- ・慈母ふくろうの像

### ② 周辺への配慮 【方針2】

- ・学校改築に伴い環境が変わる、特に日影の影響等について周辺の居住環境に配慮する。
- ・道路境界部分においては、ベンチの設置や空地など住民へのサービス空間の配置に配慮する。

- ・池三池の再生を検討する。
- ・ビオトープを設置する。

### ③ 飛び地の活用 【方針 1、方針 5】

- ・飛び地に配置する施設として、プール、地域利用の多目的スペース、子どもスキップなどの組み合わせが考えられる。
- ・本体敷地と飛び地はデッキで結ぶなど一体的な活用を図りたい。

### ④ 校庭の広さを確保 【方針 5】

- ・地下利用による建築面積の縮小を図る。
- ・観覧席など校庭機能を補完するために、校庭に面する校舎 1 階部分を片持ち又はピロティ(建物の 1 階を柱だけ残し、吹き放しとする建築様式) 形式とした半屋外空間の創出を図る。
- ・屋上階を校庭とする構成も考えられる。
- ・校舎配置計画の検討を慎重にする。
- ・今の校舎配置と同じ配置計画にする。

### ⑤ デザインイメージ 【方針 2】

- ・立教大学のレンガを地域カラーとしてとらえ、レンガの使用を工夫する。
- ・四角いビル型の建物ではなく、瓦屋根・庇や山小屋風など温かみと親しみのあるデザインに配慮する。
- ・校舎内は、木目調など温かみのある仕上げとする。
- ・メンテナンスしやすい施設とする。
- ・緑が多い、森のような学校となる工夫をする。

### ⑥ 省エネルギーへの対応 【方針 4】

- ・遮光カーテンや庇などにより、西日対策を取る。
- ・自然光が入る明るい校舎とする。
- ・風通しを良くする。
- ・普通教室にはバルコニーを設置する。
- ・屋上緑化、壁面緑化を積極的に導入する。
- ・太陽光発電など新エネルギーの導入を図る。

### ⑦ 地域の防災拠点としての構成 【方針 3】

- ・救援センター機能を確実に取り入れる。
- ・体育館は 1 階にあった方が利便性が高い。
- ・災害対策用マンホールトイレを設置する。
- ・災害対策用井戸の設置を検討する。
- ・補助 172 号から大型車が入れる道路の接道を検討する。
- ・東日本震災当日の避難の経験を活かした施設にする。
- ・震災時の避難者に情報提供ができる施設とする。
- ・道路側から入れる町会用防災倉庫を設置する。

### ⑧ 校舎の構成 【方針 1】

- ・バリアフリー化されたつくりとする。
- ・図書室とコンピュータ室を複合化する。
- ・屋上利用を工夫する。
- ・校庭で野球ができるよう校舎側にもネットを設置する。
- ・駐輪場を設置する。

- ・敷地の外周にランニングできるコースを設ける。
- ・職員室で教室の中が見えるセキュリティシステムにする。
- ・エレベーターを設置する。
- ・学級園等の農園を設置する。

#### ⑨ 諸室 【方針 1】

- ・普通教室：教室と廊下は開閉できる透明な仕切りとする。
- ・図書室：読書に親しみを持てるような楽しいつくりにする。
- ・トイレ：明るく、気持ちよいトイレとする。ウォシュレット付きとする。
- ・ランチルーム：多目的に使うことに配慮し、できるだけ広くしたい。
- ・体育館：常設ステージを設置する。
- ・プール：地域開放できる通年利用型を検討する。
- ・PTA室：冷暖房設備及びパソコンを設置する。
- ・特別教室：それぞれの教科にふさわしい特色ある構造にする。

#### ⑩ 設備 【方針 1、方針 3、方針 4】

- ・体育館を含め、冷暖房設備を検討する。
- ・防犯カメラを設置する。
- ・校庭を土とした場合は、埃防止と温度上昇を防ぐために噴霧器を設置する。
- ・最新のICT機器を導入する。

#### ⑪ 地域利用 【方針 2、方針 5】

- ・多様な地域活動が可能な校庭開放とする。
- ・地域開放の施設として、体育館、図書室、ランチルーム、PTA室のほか、地域のイベント等で使用できる多目的な地域スペースの設置を検討する。
- ・地域利用の更衣室、運動用器具庫のほか、町会で使う道具入れを設置する。
- ・地域利用にも対応できる、校舎内にベンチ等の休憩できる場所を設置する。
- ・建替え時の、町会資材保管庫を確保する。

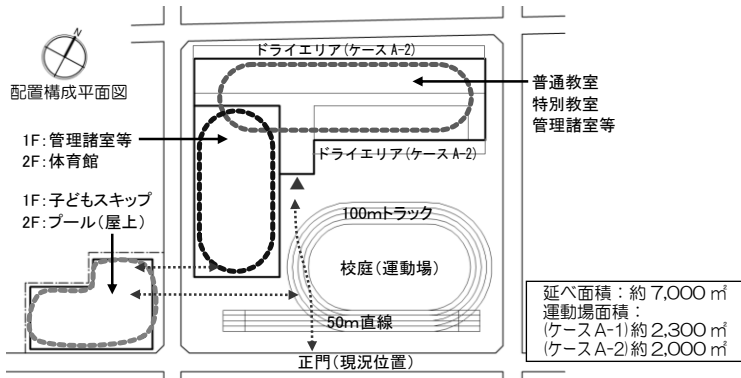
## 9.池袋第三小学校建替え建物の想定

施設配置等に関して、校庭の取り方を中心に4パターンについて模型を使って検討しました。特に重視したい点は以下の事項です。

- ・校庭（運動場）をできるだけ広く確保する施設計画、配置計画に配慮すること。
- ・日影や圧迫感など近隣住環境に与える影響に配慮すること。
- ・既存樹木をできるだけ残すこと。
- ・飛び地を有効に活用するとともに、校舎との使いやすい動線に配慮すること。
- ・敷地が正方形に近いため、同一形態プランでも4通りの配置が可能となる。教室の室内環境と周辺への影響に配慮し、配置を検討すること。
- ・校地が狭い学校で、施設標準（諸室、規模、箇所数）の全てを確保すべきか再度検討すること。

### 9-1. ケースA-1 (地上4階建て)

### ケースA-2 (地下1階、地上3階建て)



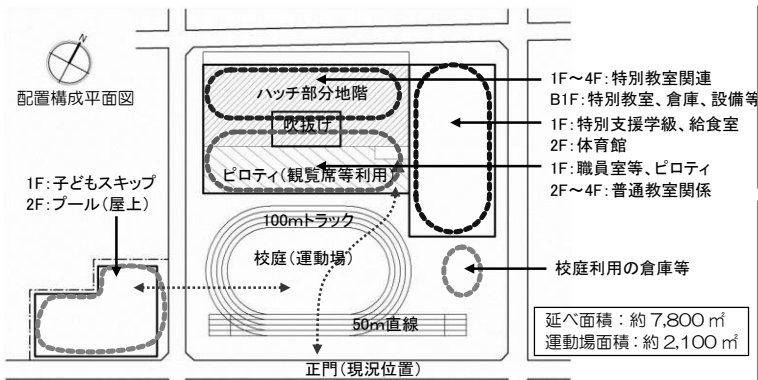
#### 【空間構成・配置の特徴】

- 校舎配置は現況に近いL型。
- 地上4階建てとした「ケースA-1」と地下1階を設け、地上部を3階建てとした「ケースA-2」を想定。
- 運動場面積は現状よりもやや広い。

#### 【課題】

- 運動場のトラック配置に余裕がもちにくい。
- ケースA-2は地下を設けているため工事費が割高になる。また、ドライエリアが必要となるため運動場面積が減少する。

### 9-2. ケースB (地下1階、地上4階建て)



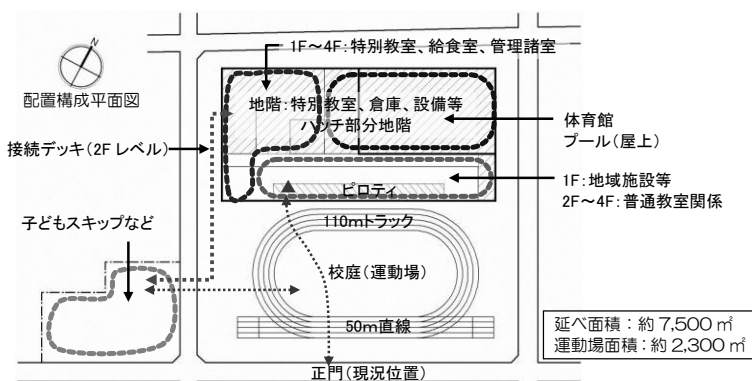
#### 【空間構成・配置の特徴】

- 各学年単位に多目的スペースを確保した校舎内レイアウトを想定。
- 校庭側をピロティとして観覧席など校庭機能の分担を可能としている。

#### 【課題】

- プールを飛び地に配置しているため、校舎を北側に配置した場合、行き来到校庭を通る。
- 体育館は2階となっている。
- 運動場面積は現状と同程度。

### 9-3. ケースC (地下1階、地上4階建て)



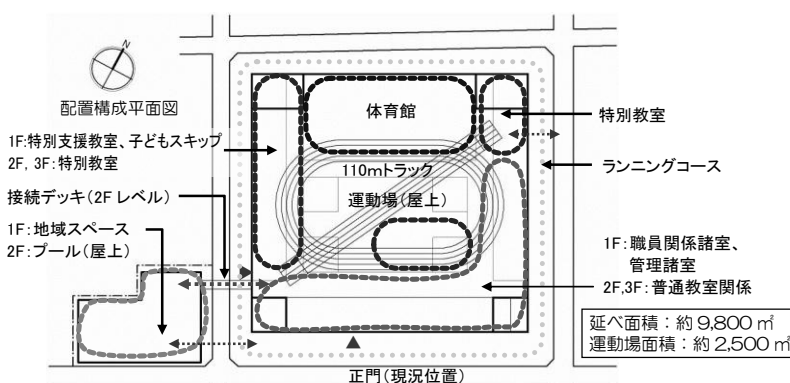
#### 【空間構成・配置の特徴】

- 校舎形状を工夫し、校庭の形状をシンプルにすることでトラックの直線部を長く取ることができる。
- 校庭側の一部をピロティとして校庭利用の観覧席機能を分担する。
- 体育館を1階に配置。

#### 【課題】

- 職員関係諸室が同一階に入らない。
- 地下部分があり整備費が割高になる。

### 9-4. ケースD (地上3階建て)



#### 【空間構成・配置の特徴】

- 諸室を口の字型に配置し、全体を屋根で覆い、その屋上を運動場とするモデルである。
- 建物回りに周回できるランニングコースが設置できる
- 体育館を1階に配置。

#### 【課題】

- 建物中央部分に不必要な空間が生じ、延べ面積が大きくなるため工事費が増大する。
- 運動場が4階レベルにあるため、地域利用や防災利用(救援センター)に支障がある。